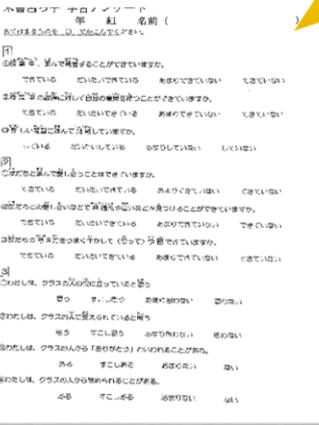


## 児童の実態調査アンケートの実施

階段掲示の作成（本校児童の苦手意識をもつ分野への対策や意欲向上の両面から考えた取組。）



## 算数体験コーナー作成

（学習への意欲面の向上にむけた取組）

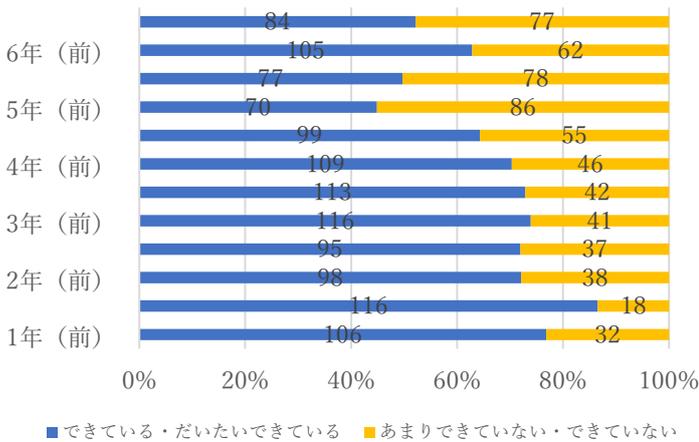


## 成果と課題

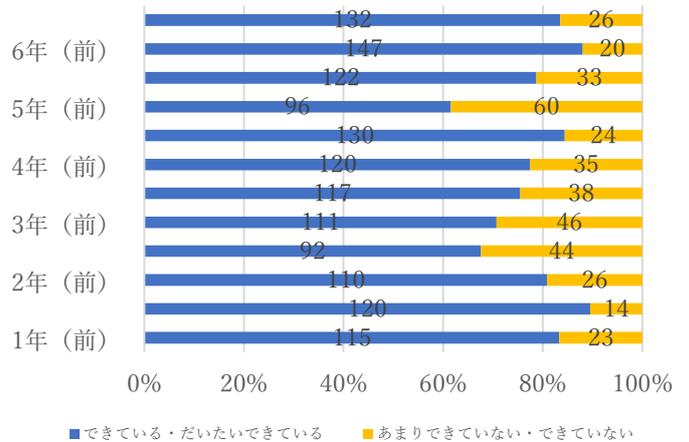
・実態調査アンケートで児童の実態を捉えることができた。

### 【仮説1に関する調査項目について】

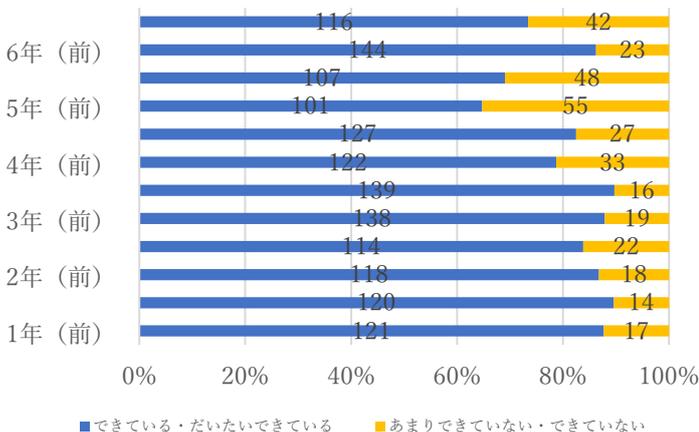
授業中進んで発言できていますか。



授業中の課題に対して自分の意見を持つことができますか。



難しい問題に進んで挑戦していますか。



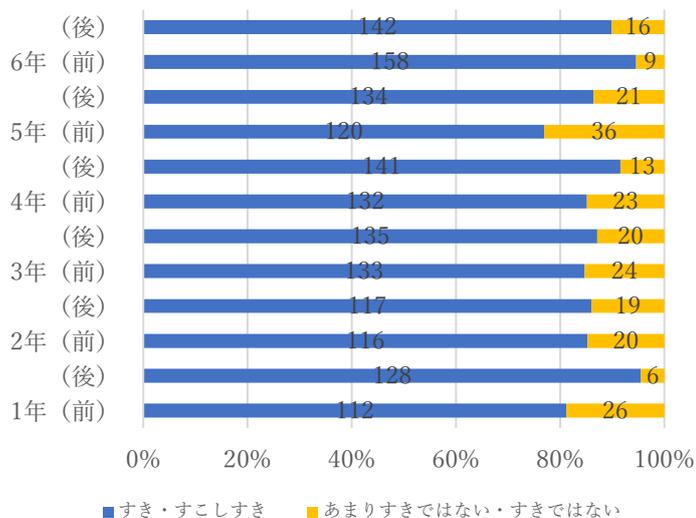
・「授業中進んで発言できていますか」の項目では、大きな変化は見られなかった。発言をする場面を多く取り入れたり、発言に慣れさせたりするなどの手立てをとっていく必要があると言える。

・「授業中の課題に対して自分の意見を持つことができますか。」では、5年生は約20%の顕著な伸びが見られる。グループ活動を多く取り入れて自分の意見を述べる場面をつくったことによる伸びであるとも考えられる。

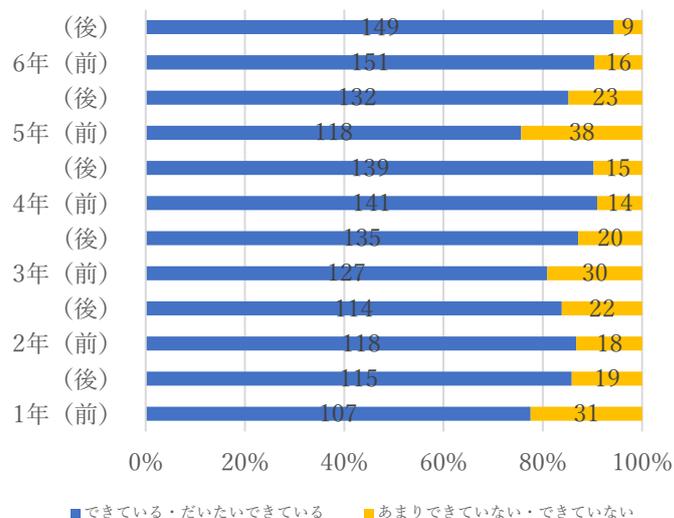
・「難しい問題に挑戦していますか」では、多くの学年で「できています・だいたいできています」と回答した児童の割合が高かった。特に低・中学年では、難問に挑戦しようとする意欲が高いので、高学年へ意欲を維持する手立てが必要である。

## 【仮説2に関する調査項目について】

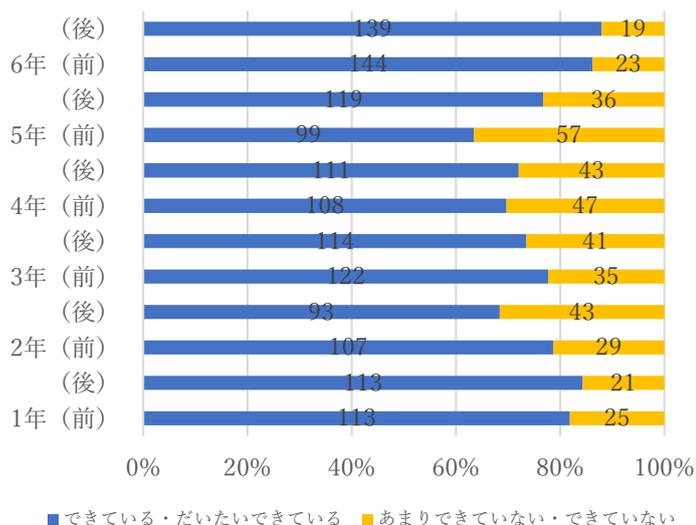
友達と、ペアやグループで学習することは好きですか。



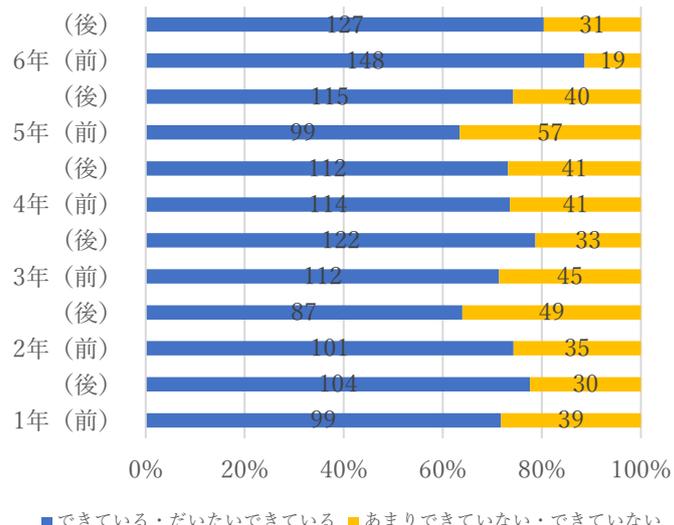
友達と進んで話し合うことはできていますか。



友達との話し合いなどで共通点や違いなどを見つけることができますか。



学習の中で、友だちの考え方をうまく生かす(使う)ことができますか。



・「友達と、ペアやグループで学習することは好きですか」「友達と進んで話し合うことはできていますか」の項目では、どの学年も「好き・すこし好き」と回答した児童の割合が9割近かった。ペア・グループ学習での意欲が高い実態を生かして、児童がお互いに高め合う活動につなげていけるとよい。

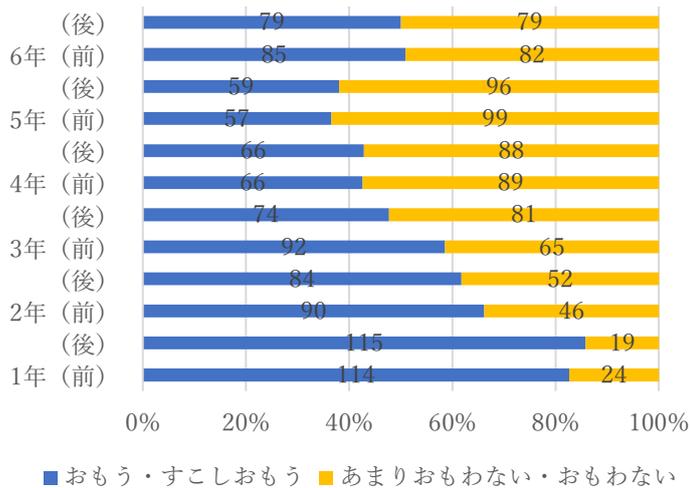
※実践例：クイズ大会の形式、付箋の使用、同質グループによる話し合い活動など

・「友達との話し合いなどで共通点や違いなどを見つけることができますか。」の項目では、話し合い活動の中で意見を言うことなどはできているが、それが共通点や違いを見つける話し合い活動につながっていない児童が多いと考えられる。低学年には、話し合いの型、中・高学年へと学年が上がるにつれ話し合いのレベルが段階的に上がるような取り組みを検討していく余地がある。

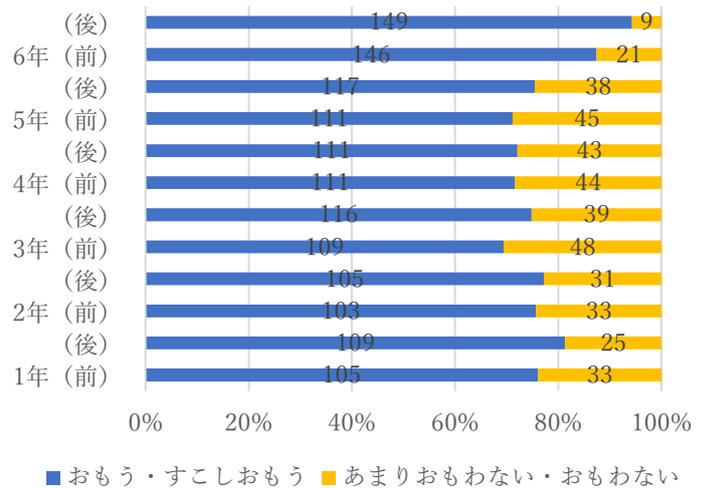
・「学習の中で、友だちの考え方をうまく生かす(使う)ことができますか」の項目で「できている・だいたいできている」と回答した児童は、ほとんどの学年で7割台であった。割合を伸ばすために、“生かす”場面を授業の中で明確に設定したり、“振り返り”の場面で友だちの考え方を生かした児童を取り上げ、称賛したりなどを行うことで生かそうとする意欲と力を高めていく方法も考えられる。

## 【自己有用感について】

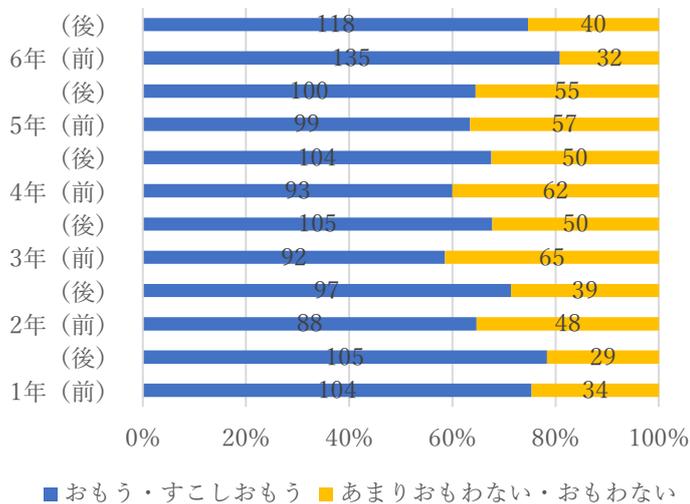
私は、クラスの人役に立っていると思う



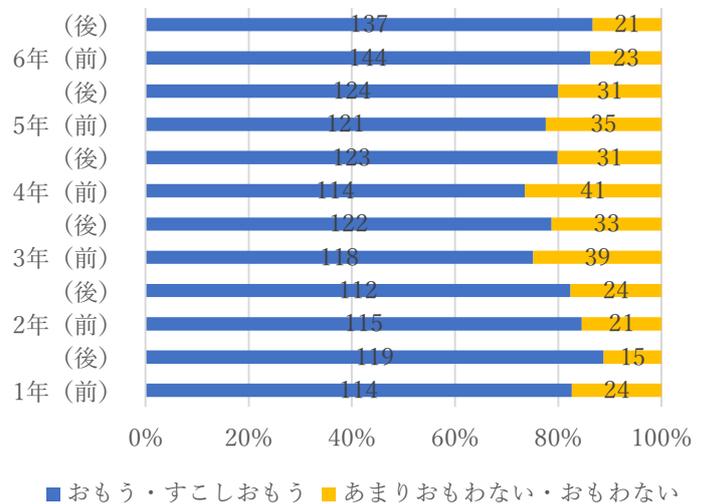
私は、クラスの人に支えられていると思う



私は、クラスの人から褒められることがある。



私は、クラスの人からありがとうと言われることがある。



本校研究テーマ『主体的に学習し、共に学び合い、高め合う児童の育成』において主体性や学び合いの観点から、自己有用感に関する項目を調査。

- ・「私は、クラスの人役に立っていると思う」の項目では、児童の意識が低いと言える。教師側が「クラス役に立っている」と具体的に認める場面を多くするなどの手立てが考えられる。一方で「私は、クラスの人に支えられていると思う」の項目で「おもう・すこしおもう」と回答した児童はどの学年でも割合が高い。また、「私は、クラスの人からありがとうと言われることがある」の項目で「おもう・すこしおもう」との回答はほとんどの学年で8割程度である。友達に支えられている、ありがとうと言われている意識は高いので“役に立っている、支えている”という自覚を高める手立てをとることで児童の自己有用感が高まっていくのではないかと考えられる。
- ・「私は、クラスの人から褒められることがある」の項目では、「おもう・すこしおもう」との回答がほとんどの学年でも8割に満たない。クラスの友達から褒められる場面をつくり出すことが必要であると考えられる。

### 〈その他〉

- ・算数体験コーナーの作成について、夏季休業日の研修時間を生かし、2・3学期までの体験コーナーの見通しを立てたことで、計画的なコーナー設置を行うことができた。
- ・階段掲示の内容及び設置場所を検討し、計画的に作成、掲示を行うことができた。
- ・アンケートの文言や内容を研究の具現化にむけて再検討し、よりよい研究につなげていくようにする。